



見沼市民フォーラムHotふおと



長年の地道な活動が評価される！

祝！ 第10回 さいたま環境賞 県民大賞受賞！！

《埼玉県最大の環境賞》



▲上田県知事から表彰を受けました。受賞の様子はテレビ埼玉で紹介されました



▲浦和踊りに参加し、「見沼たんぼにホテルを！」をアピール（平成8年）



このたび、見沼市民フォーラムに対し、「見沼たんぼの美化活動」や「ホテル観賞と音楽の夕べ」など1994年発足以降の長年の地道な活動が認められ、埼玉県【第10回さいたま環境賞県民大賞】を受賞することができました。この賞は環境保全に関して埼玉県内の個人・団体に対し、県民の模範となる優れた取組を表彰するもので、専門家を含めた有識者からなる審査会を経て選ばれるものです。特に活動の継続性、地域や他団体との繋がり、活動の効果などが重視されます。

「鳥目ちゃん」朝日新聞(全国版)にもデビュー！！

2009年(平成21年)3月17日 火曜日 享月 日 楽行 隔日 (夕刊) 新聞生協 販



見ているぞ

大きな「目」のついた赤鳥居が埼玉県南部の大規模緑地「見沼たんぼ」周辺でちらみを見せ、散策者をとりとせている「写真、実はこれ、ごみの不法投棄防止用だ。人の心理を突く鳥居型が「進化」した存在だが、表裏ごみの被害も激減している。

さいたま市緑区の田圃地帯。狭い道は、高さ約1.7mの鳥居のミニチュアが立ち並び、本の柱の真ん中で黒い目がギョロリ。同じ物が周辺に50、60基点在している。そばに説明書はなく、道行く人の間では「何かのまじない？」「暗闇に浮かび上がり、びんごらする」と話題に。

設置したのは、見沼たんぼ周辺の住民ら約60人でつくる市民団体「見沼市民フォーラム」(新井和芳会長)の人たちだ。94年に結成。清掃活動やホテルの創育、観賞会などを精進してきた。しかし、ごみの不法投棄は大きな悩みの家庭ごみだけでなく、家具や建築材が毎...

ごみ被害にらんで激減 さいたま

緑区内だけで数カ所にとわって捨てられた、ダンブカーが、道はたのくいを踏んで空き地に入り込むケースもあったという。

「看板も監視カメラも効果がなかった」と新井会長(67)。そこで3年前、緑地で「鳥居」効果を知ったフォーラム幹事で修理工場を営む本間正博さん(66)が自ら立ち上げた。すると、撤去投棄のいたごらなくなった。本間さんは「見ているぞ」と念を込めたらあんな形に。神聖な鳥居には恐れ多いが、相手の良心を刺激する効果があるかも。昨夏に約100基を作り、メンバーが投棄の定点監視を続ける場所々に取り付けている。

「景観上、本番はない方がいいが、首都圏に残された貴重な緑地を守るため、住民や訪れる人の意識を高めていきたい」と新井さんは話している。(奈良有祐)

▲1994年4月、設立総会を「さぎ山記念館」で開催。当時は環境問題の意識がまだ低い時代でしたが、市民レベルでの「見沼たんぼ」を中心とした活動は社会的にも注目を集めました

緑区「きれいキレイ大作戦」に参加

2009.3.15 民家園



▲実行委員長として挨拶する新井会長